

## 第1回 名古屋港の将来を考える会 議事要旨

### 1 日時

令和5年9月12日（火） 10:00～12:00

### 2 場所

TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線口

### 3 議題

- ・名古屋港の将来を考える会について
- ・名古屋港の将来を考える際の視点について

### 4 主な議事

- ・秀島委員を座長に選出した。
- ・事務局から、本会の目的、第2回を年内、第3回を年度内に開催することなど本会の検討の進め方を説明し、その内容を確認した。
- ・事務局から、名古屋港の現状と課題、取り巻く環境変化、名古屋港の将来を考える際の視点について説明し、構成員から幅広く意見を頂いた。

（名古屋港の将来を考える際の視点）

- アジアの成長を牽引する中部圏を支える名古屋港のあり方の視点
  - 名古屋港が持続的発展・進化するための戦略的な視点
  - 名古屋港の更なる再編、適正な機能配置の視点
- ・今回の意見を取りまとめて、第2回の考える会を開催する。

### 5 議事要旨

- ・リニア中央新幹線の開通や幹線道路網の更なる充実が見込まれ、中部国際空港と近接していることなどの地理的特性も活かして、国土形成計画で示された日本中央回廊の中心に位置する中部圏を支える名古屋港が果すべき役割を考えることが重要である。

（裏面に続く）

- ・将来の方向性を検討するには、輸出入や取扱貨物の状況等から、名古屋港の国内港湾における位置づけを改めて整理することが必要である。
- ・地政学リスクや為替リスク、船舶の大型化の傾向や使用される燃料など将来の様々な不確実性がある中で、それにフレキシブルに対応していくことが必要である。
- ・労働力不足への対応として、DXによる最先端の物流を構築するなど生産性を高めることが必要である。
- ・名古屋港は自動車産業を中心に発展してきたが、EV化の進展やそれに伴う産業構造の変化が懸念される。今後のコンテナ物流を考える上では、産業の創出、創貨・集貨の取組が求められる。
- ・名古屋港はカーボンニュートラルの一大拠点となるポテンシャルがある。利用者に選ばれるために、脱炭素などで先端を走る取組が必要である。
- ・これまで名古屋港周辺は倉庫不足も聞かれたが、近年大型テナント型流通施設が進出し、需要を満たしている状況で、物流のマーケティング的には期待が高まっている。
- ・企業の用地需要や新たな倉庫の立地状況及び既存倉庫の老朽化状況などを踏まえて、港内の機能再編を検討する必要がある。
- ・交流拠点開発を進めることは、名古屋港のブランド価値向上やビジネス機会創出、地域活性化につながる。ガーデンふ頭や金城ふ頭などにおいて、都市機能と調和するにぎわい創出が必要である。
- ・ポートアイランドは、カーボンニュートラルの拠点やコンテナターミナルの将来展開用地のほか、港内の機能再編のための既存機能の移転先とするなど様々な可能性がある。シナリオを一つに絞るのではなく、形状やアクセスも含め、複合的・段階的に利活用する検討が必要である。

以上